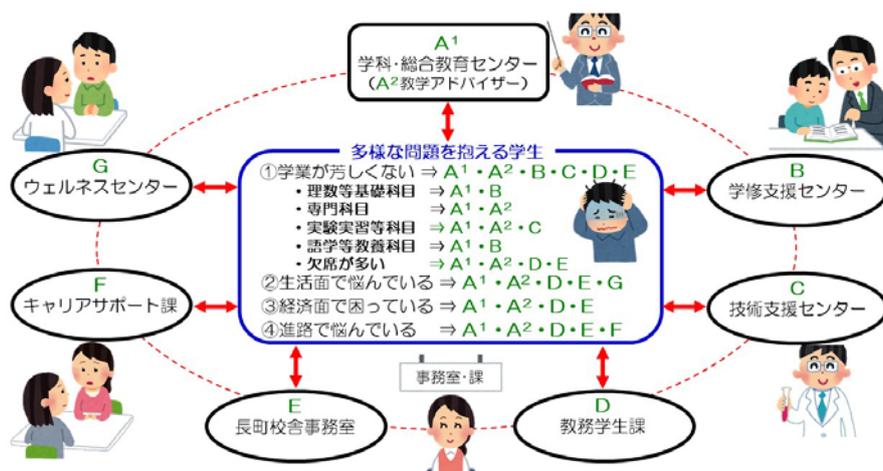


V. 特記事項

1. 恒常的な学生支援体制

本学では、留年・休学・退学の削減を図るため、専門教育はもちろん学生生活から進路支援に至るまでの指導を担う学科(A¹)、語学等の教養教育を担う総合教育センター(A¹)、主に学科の学びで問題を抱える学生を支援するため平成 27(2015)年に新設した教学アドバイザー(A²)、入学前教育やリメディアル教育などの基礎学力向上を図るために平成 29(2017)年度設置した学修支援センター(B)、各学科等における実験実習等の学びを支援するために平成 29(2017)年度設置した技術支援センター(C)、学業・生活・経済面及び進路支援に至るまでの相談窓口の教務学生課及(D)び長町校舎事務室(E)、キャリア形成及び就職の支援相談窓口のキャリアサポート課(F)、身体の健康と心の健康の支援相談窓口のウェルネスセンター(G)等の組織及び教職員ごとによる、多様な問題を抱える学生に対する恒常的な支援を展開している。

しかしながら、各組織等間の情報共有不足が現在の支援体制における課題となっている。そこで、今後、多様な問題を抱え様々な指導を要する学生の情報共有をスムーズに行い、個々に適した指導や助言の推進を図るため、相互に連携を深めて学生にアプローチする新たな支援体制の構築（下図）を予定している。



図「相互連携の強化を軸とした新たな学生支援体制のイメージ」

2. 国際交流の取組み

国の内外を問わず、文化や価値観を異にする人々との交流を通して理解しあえた体験は、人を幸福にし、人生を豊かにする源であり、学生にはそのことが重要な修養である。その意味において、国際交流事業として外国の学生・教職員を受け入れることと本学の学生・教職員を派遣することは同等の意義を有すると考え、そのための環境を整えている。

現在、本学が国際交流協定を締結した大学は、学科レベルの協定も含め 15 校である。これらの大学とは、学生の派遣と受け入れの覚書を取り交わしており、平成 27(2015)年度～令和元(2019)年度の 5 年間の派遣総数は 124 名、受け入れ総数は 133 名である。

平成 28(2016)年には日本国際協力センター(JICE)の「KAKEHASHI Project」に採択され、米国テキサス州ヒューストンに学生 23 名を派遣した。帰国後、同プロジェクト参加学生を中心とした国際交流サークルの結成に発展し、現在も活発に活動を続けている。